



## 佳作

五年たっても  
(匿名希望)

病名を聞いて、衝撃をうけてから6年目。今でもあの日の気持ちは忘れません。がんという病名と死という言葉、そして家族の顔が頭の中をグルグルまわりました。その後の家族の言葉、婦人科の先生や看護師さんの「言葉かけ」がなかったら、今のこの命があったかどうか…。

がんという病気は手術でとってしまったら「ハイ、おしまい。大丈夫もとどおり。」というわけではありません。私の場合、再発の恐怖、排尿障害、抗がん剤による「しびれ」や「むくみ」など、ずっとその苦しみと付き合いなくてははいけません。入院中他の患者さんから言われた「がん患者の後にはお風呂にはいりたくないよね。」や、看護師さんの「完治は難しいから。」という何気ない言葉に傷ついたり苦しんだりしました。が、その反対にたくさんの看護師さんや入院友達の思いやりや優しさにふれて、逆に感謝の涙を流したり。

手術を下さった先生、私の心を救ってくれた担当の看護師さん。髪がぬけると知った時、ウィッグの本を貸して下さって、「楽しんで見るんだよ。」とはげまして下さった美容室の先生、病院で知り合った友達、以前からの友人。そして家族。

病気後は感謝の気持ちや、思いやり、人を助ける気持ちを大切に生きています。以前の仕事、保育士をできるようになり、ますます感謝の日々です。病気も、悪い事ばかりではなかったよね。と少しずつ思えるようになった、今日この頃です。